

雇用政策研究会委員による視察結果報告

厚生労働省 職業安定局雇用政策課

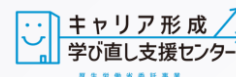
Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

実施概要

厚生労働省が所轄または委託する事業所へ雇用政策研究会委員が視察し、現場職員との意見交換会を実施

○第一回開催（キャリア形成・学び直し支援センター）

2024年1月16日（火）



○第二回開催（東京マザーズハローワーク）

2024年1月29日（木）



○第三回開催（むさしのサポートステーション）

2024年2月14日（水）



ひと、暮らし、みらいのために



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

キャリア形成・学び直し支援センター

【実施日】2024年1月16日（火）

●施設の概要

「キャリア形成・学び直し支援センター」（以下「センター」という）では、企業や労働者が気軽に「キャリア形成、学び・学び直し」について**キャリアコンサルティングやジョブ・カードの活用、各種セミナーの実施などの包括的なサポートが無償で受けられる**。（厚生労働省委託運営業者：株式会社パソナ 本社所在地：東京都千代田区）

●施設の特徴

- ・厚生労働省の委託事業のため、無料で利用可能。
- ・全国**47か所**に設置。
- ・所属するキャリアコンサルタント数は504名（2024年1月末現在）。
- ・支援対象は個人だけでなく、企業や団体、学校も対象。

●ヒアリング内容

個人利用者の主なキャリアに関する相談内容としては「**現状のキャリアプランに悩んでいる**」「**自分の強みを知り、今後どのように活かしてゆくか知りたい**」「**育児・介護・治療との両立について悩んでいる**」が多い。

都心部および地方の企業ともに共通する社員のキャリア形成に関する課題は「人（社員）の定着をさせるためにはどうすればいいのか」であり、それらを理由として全国からの申し込みがある。センターでは各企業の課題に合わせた社員向けセミナーを展開。

在職者で実際にキャリアコンサルティングを受けた利用者からは「今の企業に残る方がメリットと感じた」といった意見も聞かれた。他にも、上司に相談しにくいことや言いにくいことをキャリアコンサルタントに伝えられた結果、目標や夢がクリアになり、**自身のキャリアに対して前向きに考えるようになった**との声も聞かれる。



●政策観点でのインプリケーション

多様なキャリア形成が求められる中、ハローワークに加えて、民間のノウハウを活用した**官民連携のキャリア支援体制の強化を行うことで、より多様なニーズへの対応が可能となっている**。特に、センターの利用を検討している個人・企業利用者に対して、厚生労働省の委託事業であることを伝えることで、より信頼性をもった利用促進が図られている。

企業へのキャリア形成支援については、現状において、大企業も含め、人材育成やキャリア形成支援等についてノウハウが十分でない企業も多くあることから、当該事業を通じた企業支援も重要となる。

また、労働者個人への支援については、例えば、キャリアコンサルティングを行う中で、強いキャリアチェンジを希望する利用者に対して、ハローワークと連携した就職支援を充実させるなどの取組強化も期待される。

マザーズハローワーク東京

【実施日】2024年1月29日（月）

●施設の概要

「マザーズハローワーク」では、子育て中で就職を希望する方のために、「仕事と子育てが両立しやすい求人」の確保・紹介や担当者制による就職支援、託児付きセミナーの開催など、**子ども連れでも求職活動しやすい環境となるよう整備**がされている。

●施設の特徴

・ハローワーク内に設置されているマザーズコーナーを含め、全国**200か所以上**に設置。

・**支援対象は主に子育て中の親（子どもの年齢は未成年者を想定）**。

※マザーズハローワーク東京では、面接用グッズとして、ハローワーク職員が提供したスーツ・靴・バッグ等をレンタルしている。（所在地：東京都渋谷区）



●ヒアリング内容

マザーズハローワークでは、子育て中の親を幅広く対象としているものの、実際の利用者の約7割が「未就学児以下の子どもがいる親」であることから、「未就学児以下の子どもがいる親」のみを対象としているとの誤解がみられる。**周知・広報の強化を行い、マザーズハローワーク全体の認知度を高める取組が求められる。**

マザーズハローワーク東京では、会社訪問等により「仕事と子育てが両立しやすい求人」を確保し、**「子育て中の方向け求人」として限定公開しており、その内訳は、就業形態別ではパートタイムが約7割を占め、職種別では事務的職業が8割強を占めている。**

一方、子育て世代の方に配慮した職場環境整備が進んでいる企業がまだまだ少なく、そうした企業や利用者の住居から近いなど**個別のニーズに配慮した求人開拓が今後の課題**となっている。

●政策観点でのインプリケーション

人手不足の状況下において、働く意欲のある子育て世代の就職支援を行うことは、個人だけでなく企業や社会全体のニーズに即した取組となっている。子育て中の方と企業のマッチングを促すためには、**子育てとの両立に理解のある企業を増やしていくことが重要**であり、**マザーズハローワークにおける企業開拓と並行して、国や自治体においても、企業に対してワークライフバランスに適う職場環境の整備を呼びかけていくことが求められる。**

マザーズハローワークに来所する求職者は、家から通いやすく、隙間時間に働けるパートを希望する人が多いため、長期的な視点でキャリアを支援していくことに一定の限界がある。このため、**子育て中の方のキャリア支援という観点では、企業とのマッチングに重点をおいているマザーズハローワークと、長期的なキャリア形成に重点を置いている民間の人材紹介会社等との協業や協力が重要**となってくる。

むさしの地域若者サポートステーション

(実施日) 2024年2月14日(水)

●施設の概要

「地域若者サポートステーション(以下:サポステ)」は、**働くことに悩みを抱えている15~49歳までの方を対象として就労準備に向けた支援を行っている**。若者支援の実績がある民間団体などに厚生労働省が運営を委託しており、**全国177か所に設置**されている。ビジネスマナー講座や就活セミナーの他に、各サポステごとに独自の集中訓練プログラムを行っているのが特徴。

●むさしの地域若者サポートステーション(所在地:東京都武蔵野市)の特徴

- ・利用者は20代前半が最多で、次いで10代後半、30代となっている。
- ・2022年度は約570名の利用があった。
- ・**独自プログラムとして「ベーカリー風のすみか」の運営や、ソーシャルファーム事業を行っており**、武蔵野市や東京都などの自治体とも連携しながら若者の社会に踏み出す一歩を支援している。

●ヒアリング内容

集団経験に乏しい若者が増えており、**人とかかわりに敏感になっている若者も多くみられる**。集団で何かを成し遂げた経験が少ないことが、働くことへのハードルを高くしているのではないかと考え、むさしのサポステでは、まずは一人で黙々と作業するパソコン教室などの段階から始め、その後、グループワークなどで他者と関わる経験や、ベーカリー等での職場体験を通じ、最終的には人々と語り合い、社会の繋がりを知り、就職するという流れをイメージして様々なプロジェクトを構成している。

さらに、地域の福祉事業所(介護施設、保育所)での職場経験や、地域の方が運営しているカフェへの出店など、**地域との繋がり、人々の温かさを実感させながら、働くことへの不安感・抵抗感をなくす工夫をしている**。



●政策観点でのインプリケーション

ハローワークでは、求職者や事業所に対して職業相談や各種助成金の交付等による就労支援を行っているが、サポステでは、支援対象者本人だけでなく、その保護者や家族などへの支援も幅広く行っており、課題解決に向けてより寄り添った対応を行うことができる。また、全国177か所**それぞれの地域で異なる団体が運営することで、その地域独自の特徴や繋がりを取り入れた支援を行うことができる**。

一方で、サポステではハローワーク等での求職申込をする前段階の方々を中心にサポートを行っているため、個々の支援対象者に対しての**支援が長期化する場合があり、支援現場の負担感も大きくなる傾向にある**。こうした現場の負担を軽減させるとともに、支援対象者が将来的に働くイメージや、働く事への不安を払拭してゆけるようハローワーク等との官民連携を引き続き強化することで、支援対象者に対してより強固な伴走型支援の実現に向けた取組みが重要となる。